

# 俵君(5年) 島根代表

## 小学生プログラミング最優秀

「みんなの未来」をテーマにした島根県小学生プログラミング大会が26日、松江市西川津町の島根大であつた。小学生8人がそれぞれ未来を思い描いた作品を発表。島根大付属義務教育学校前期課程5年の俵恵太君(10)がゲームを通じて未来の地球環境を考える作品で最優秀賞に輝き、全国大会(2023年3月・東京)の出場を決めた。

俵君は「SEKAIを救おう!」と題し、画面の上から降ってくる「酸素(O<sub>2</sub>)」

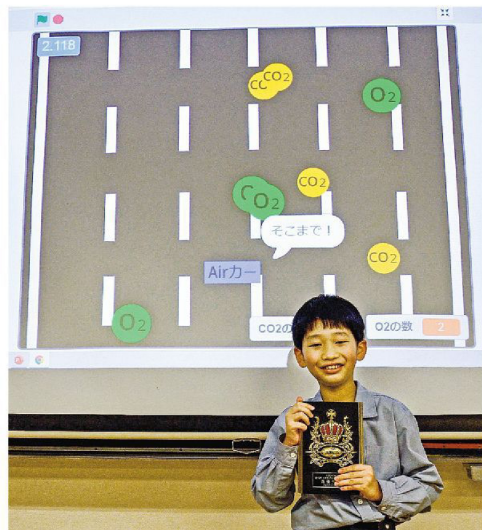
るゲームをプログラミング。タイマー表示により地球温暖化の進行を表し、紧迫感を出した。

また、車は地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>を燃料に使うことができる設定で、地球上の生物が住み続けられない未来の在り方を表現。発

想の面白さとプログラミングを駆使した表現力の高さが評価された。

俵君は「大人になったときに生き物が住めなくなるかもしれないと、知ってほしくて作った」と話した。

優秀賞は、病気で苦しむ人が少なくなるようにと思いを込めた松江市立古志原小学校6年の渡辺新大君(12)の「病気診断メーカー」。他に、新型コロナウイルス禍で出雲大社に参拝できない人のための参拝ゲーム、需要が高まりそうな昆虫食を楽しく学べる作品などが披露された。



「SEKAIを救おう!」と題したプログラミングで最優秀賞に輝き、盾を手にほほ笑む俵恵太君(松江市西川津町、島根大)

山陰中央新報社、島根大、松江工業高等専門学校などが主催した。(井上雅子)